

インプラント治療における咬合のリスクマネジメント

咬合の SAC 分類に基づいた機械的トラブルの回避

米澤大地

兵庫県開業 医療法人社団
通話先: 〒662-0013 兵庫県西宮市新甲陽町3-12

Risk Management for Implant Occlusion

Daichi Yonezawa

キーワード：インプラント、咬合、リスクマネジメント



はじめに

現在の歯科臨床において、インプラント治療はもはやそれ抜きには語ることができないほど普及しつつある。しかし同時に、そこには一定の割合でトラブルが起こっている現実がある¹。インプラント周囲炎といった細菌感染による生物学的なトラブルは深刻であるが、実際は機械的なトラブルのほうが頻度は高いように思われる。機械的なトラブルとして、下顎が偏位した結果咬合しなくなる、逆に下顎位偏位によりインプラント補綴に力学的ストレスがかかり上部構造やアバットメントに破損が生じる、スクリューに歪みが生じる、究極的にはインプラントのディスインテグレーションが起こる(図1)などが挙げられよう。このような機械的・力学的なトラブルに対しては、構造力学と咬合のコントロールが重要であると考えている。力学的なトラブルを未然に防ぐためには、信頼のできるインプラントメーカーの選択や、ジョイント部の構造の理解、アバットメントなどのパーツの適正な使用、上部構造のデザイン、欠損補綴の適正な治療計画、鍛造といった技工技術などが重要である。また、包括的な問題として、そ

の症例が咬合学的にリスクファクターを多く含むものか否かを見極める力が必要とされる。

そこで筆者は、インプラント補綴での機械的なトラブルを回避するため、咬合のリスクマネジメントとして、症例をシンプル(またはストレートフォワード)(S)、アドバンス(A)、コンプレックス(C)に分け²、それぞれに応じた治療計画を立案している。シンプル(S)とは、もともと力学的問題は少なく、歯周治療やインプラント治療に専念できるケースを指す。アドバンス(A)とは、補綴治療やLOT(限局矯正)を組み合わせるなど治療計画の工夫により、咬合再構成が必要になりそうなケース[コンプレックス(C)]をシンプル(A)に仕立てるケースのことを指し、最小限の介入で長期安定を狙うものである。コンプレックス(C)とは下顎位の変更やアンテリアガイダンスの付与など咬合再構成の必要なケースを指し、全顎的な治療介入によって長期の安定を狙うものである。これらの分類を明確にすることで、機械的なトラブルを少なくすることが可能であると考えている。本稿では、分類別に6ケースを提示し、その治療の実際について解説を試みたい。

*咬合の SAC 分類：ITI の SAC 分類²を筆者アレンジ